

# 教育子午線

Kyoiku-Shigosen



February, 2019

vol.48



◎教育最前線

## 教育としての部活動

## 部活動の現在と未来

学校における部活動は、本来楽しく、貴重な友人関係が生まれる場所です。現在の部活動が何故これほど問題になるのでしょうか。一つは、平成26(2014)年に発表されたOECD国際教員指導環境調査(TALIS)です。「1週間当たりの教員の勤務時間は参加34カ国中最長であり、授業時間は参加国平均と同程度であるが課外活動の指導時間が特に長い」という結果でした。これまでも教員の部活動に関わる時間は水面下では問題視されてきましたが、教員による指導という時間尺度での話なので、教員以外の指導者が措置されればこの問題はかなり解決します。もう一つは、平成24年に大阪市立桜宮高校で起こった部活動における体罰事件です。スポーツの強豪校といわれる学校でしばしば発生する指導の中身の問題であり、こちらは指導者が誰であるかは問いません。このように指導時間の長さの話と指導の中身の話は、異なる立場からの部活動論に発展しそうですが、実際にはリンクしています。特に中学校や高校の運動部では、地域でのリーグ戦で勝ち進めば、県内大会、そして全国大会へ出場するように勝負の世界という側面もあり、勝ち進むことを目標とする場合、相当の練習時間が必要となることが想定されます。

スポーツ庁が、昨年3月に運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインを発表しました。学期中は週2日以上以上の休養日を設け、1日の活動時間は平日2時間、休日3時間までとするという内容です。一方、平成29年3月告示の中学校学習指導要領では、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については(中略)学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携等の運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにする」と記されています。「自主的、自発的な参加」も重要な部分ですが、「持続可能な運営体制」に到達するには、まだまだハードルがありそうです。勝てるチームになりたい・育てたいという自然発生的な願望を、所定の限られた部活動の時間の中でどのように達成するのか。この問いについて、誰か根本的な解決策をお持ちなののでしょうか。

学長 ふくだ みつ ひろ  
福田光寛





# 教育としての部活動



近年、学校教員の部活動の指導についてメディアで取り上げられることが多くなり、生徒の学校生活に占める拘束時間の長さなどから「ブラック部活」という言葉を聞くことも珍しくなくなりました。また、部活動顧問教員の労働環境についても問題視されています。なぜ、今になって「ブラック部活」と呼ばれるようになったのか。そして、部活動の教育としての意義とは何か。今回は、社会動向の変遷から部活動の在り方について探っていきます。



## 中学校学習指導要領による部活動の定義・解釈

### 中学校学習指導要領総則より

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。

### 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説より

#### 生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動について

- ① スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成等に資するものであるとの意義があること、
- ② 部活動は、教育課程において学習したことなども踏まえ、自らの適性や興味・関心等をより深く追求していく機会であることから、各教科等の目標及び内容との関係にも配慮しつつ、生徒自身が教育課程において学習する内容について改めてその大切さを認識するよう促すなど、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること、
- ③ 一定規模の地域単位で運営を支える体制を構築していくことが長期的には不可欠であることから、設置者等と連携しながら、学校や地域の実態に応じ、教員の勤務負担軽減の観点も考慮しつつ、部活動指導員等のスポーツや文化及び科学等にわたる指導者や地域の人々の協力、体育館や公民館などの社会教育施設や地域のスポーツクラブといった社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うこと。

# 部活動も時代の価値観に 合わせた変化を

## 運

動部活動は矛盾の多い教育活動です。残業が

給料に反映されないという労働としての矛盾や、教育活動なのに教育課程外という制度上の矛盾は言うまでもなく、本来子どもで自主的で自由な活動であるにもかかわらず、教育という名の統制力が働くという特質に関する矛盾。そして、教育という看板を掲げながら、実態は競技スポーツであり、子どもの「成長」よりも大会での「勝利」が賞賛されるという評価の矛盾などです。今、これらの矛盾が一気に表面化し、「部活動のブラック化」などと騒がれています。

しかし、誤ってはならないのは、運動部そのものがブラックになったわけではないということです。変わったのは、運動

部を取り巻く時代です。運動部は「変わった」からではなく、「変わっていない」から問題なのです。わが国では、戦後から

高度経済成長を経てバブルまで、一貫して資本主義を謳歌してきました。汗水垂らして残業や休日出勤をこなし、マイホームや高級車などより良い「モノ」を手に入れた人をたたえた成果主義の時代です。それは、顧問の熱血指導の下、血と汗と涙を流しながら、賞状やメダルという「モノ」の獲得を競う運動部活動と全くの相似形でした。つまり、運動部活動は、時代を担う人材を輩出する教育活動として広く国民に支持されてきたのです。

ところが今、その価値観は大きく揺らいでいます。それはなぜか。端的に言えば、産業が

発展し「モノ」が世にあふれるようになったからです。「モノ」が潤沢にある今、われわれの良

い「モノ」への憧れは鈍化しています。なぜなら、そこそこの「モノ」が安価で簡単に手に入るからです。むしろ今、われわれが欲するのは「モノ」そのものではなく、「モノ」を通して得られる充実感や満足感、やりがいなど「ココロ」の領域ではないでしょうか。より良い「モノ」の獲得を重視した時代は終えんを迎えつつあります。豊かな「ココロ」を希求する時代へと変貌しつつある今、運動部活動はいまだ旧来の価値観で設計されています。まさに、時代の価値観に合わせた変化を遂げていないところに、運動部活動の根本的な課題があると私は考えています。

## 昔と今の価値観の変遷

昔

成果重視の時代  
(より良いモノが大事!)

「時代のキーワード」

敗戦、高度経済成長、  
東京オリンピック、バブル、  
偏差値教育



今

プロセス重視の時代  
(豊かなココロが大事!)

「時代のキーワード」

ゆとり、働き方改革、  
主体的で対話的で深い学び、  
アクティブラーニング



生活・健康・情報系教育コース  
ありやま あつとし

**有山篤利 准教授**

研究分野 / 武道論(文化論・教育法)、  
体育科教育、運動部活動

## 教員の部活動へのさまざまな声



部活動の顧問は  
やりがいがある!

時間の許す限り活動を行い、  
生徒を勝たせてあげたい!



土日も試合の引率があり  
家族との時間が持てない…

部活動と授業準備の両立が大変!  
毎日残業になってしまう…

## 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の概要

部活動顧問の長時間労働、指導の専門性や生徒に課される勝つことのみを目的とした過度な練習…。こうした問題を背景として、平成30(2018)年3月、スポーツ庁によって生徒がスポーツに親しめる環境をつくるためのガイドラインが策定されました。

### 学校における体制の見直しと、競技団体等の協力

- 活動計画、方針を策定・公表
- 運動部活動の数の見直し
- 部活動指導員の積極的な任用

### 休養日の設定等、医・科学に基づく活動

- 生徒の心身の健康管理、事故防止、体罰・ハラスメントの根絶
- 休養日や活動時間の設定・公表

### 4つのポイント

### 少子化の中での子どものニーズを踏まえた環境整備

- 多様な目的の運動部の設置
- 複数校合同部活動等の推進
- 地域との連携

### 大会規定の見直し

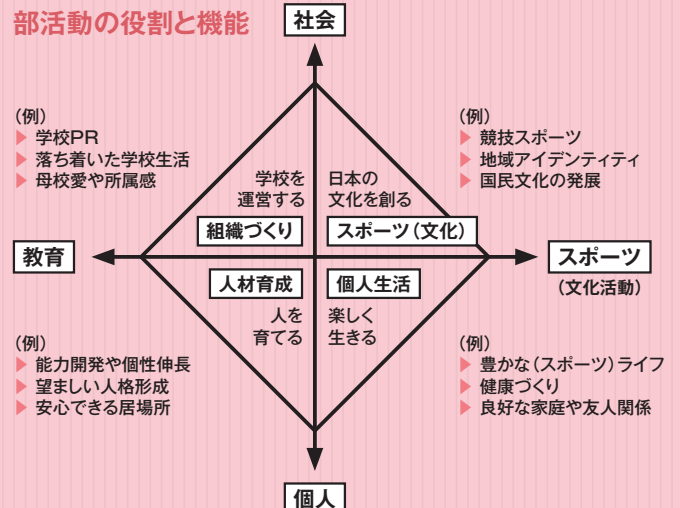
- 参加単位の見直し
- 各学校の運動部が参加できる大会の上限の設定
- 大会日程の見直し

### 有山先生の解説

**外** 部指導者の任用や休養日の設定、大会規定の見直しなどが明記され、部活動が競技スポーツを担うことの限界が示されたことについては評価されるべきと考えます。しかし、部活動＝競技スポーツをすることではありません。右図のように、部活動は教育として多様な役割や機能を担っています。今回のガイドラインは、部活動が競技スポーツを担う限界が示されているのですが、他の大切な役割の充実には具体的に言及されていません。私たち部活動に関わる者には、この問題を単に競技スポーツに関わる負担の軽減で片付けることなく、子どもの生活や未来を豊かにする教育として、どう再編充実していくのかが問われていると思います。



### 部活動の役割と機能



## 兵教大の授業科目

# 学部「部活動の指導と運営」

■ 担当教員 / 生活・健康・情報系教育コース

森田啓之准教授・有山篤利准教授



■ 科目区分 / 教職キャリア科目 ■ 履修年次 / 学部3・4年 ■ 受講人数 / 12人

### ■ 授業の概要

学校教育における部活動について、学習指導要領を踏まえた位置付けや意義・役割について学び、部活動が抱えている課題、これからの部活動の在り方などについて考えます。

### ■ 学びのポイント

- ▶ 学校における部活動の位置付けについて理解します。
- ▶ 部活動の果たしてきた役割と意義、抱えている課題について理解します。
- ▶ これからの部活動の在り方について、冷静な認識を持つことができます。

## 受講生の感想



しも だ とも み  
**下田朋実**さん  
学校教育学部  
学校教育系コース4年

**小** 学校教員を志望しているので、将来、部活動に直接関わる機会はあまりないと思いますが、部活動の運営は学級経営や小学校のクラブ活動に応用できそうだと考え、授業を受けることにしました。講義の中で部活動の意義について学び、知識をつけてからグループワークや話し合いをするので、他の履修生と価値観の違いを確認することができました。



ささ の さち よ  
**笹野祥代**さん  
学校教育学部  
学校教育系コース4年

**中** 学校と高校の保健体育の教員免許状取得を目指しているため、部活動について無関心ではられないと思います。履修しました。この授業の魅力は履修生の学修意欲が高いので、話し合いが盛り上がる場所です。また、履修生の多くが部活動やクラブに所属した経験があり、個々の経験を共有できるので、部活動に対する学びが深まりました。

## 授業 / のぞき見

## 現職教員学生から体験談を聞く機会も

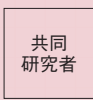
12月12日の授業では、修士課程生活・健康・情報系教育コースの1年生で現職の中学校教員でもある伊藤功二さんが教壇に立ち、外部指導員との関わりや競技経験のないスポーツの顧問になったことなど、自身のさまざまな経験を披露しました。学生たちからは、「試合に出場するメンバーをどのように決めているのですか」「男子生徒・女子生徒それぞれの関わり方で気を付けていることは」など率直な疑問や質問が次々にぶつけられ、次第に学生自身の経験談を交えた活発な議論に展開しました。

授業を担当する有山准教授は、「これから部活動の顧問には、競技の指導力だけでなく、教育としてどのような部活動をつくり上げ、どのように周りの協力を得ていくかといったプロデュース力とマネジメント力が必要だと思います。真正面から取り組むととてもやりがいがあるので、ぜひ頑張ってほしいです」と話しています。





あさうみ まゆみ 芸術系教育コース准教授  
**浅海真弓**



むらかみ ゆうすけ 芸術系教育コース教授  
**村上裕介**

ひらの けんご 姫路市立曾左小学校教諭  
**平野兼伍**

共同  
研究者

●「理論と実践の融合」に関する共同研究活動とは、兵庫教育大学のミッションの一つである「教育実践学の推進」をより一層図り、その成果を国内外に発信し、学校現場や教育委員会のニーズに応えるため、平成23(2011)年度から「理論と実践の融合」に関する学際的な共同研究を教員から公募し展開しています。

# 研究レポート

## 図画工作科・美術科における伝統文化学習教材化の視点と展開 — チェコ共和国と日本における事例の比較から —

(平成29年度理論と実践の融合に関する共同研究活動に採択)

RESEARCH STUDY REPORT



↑プラハキュビズム美術館の学習スペース



↑国立マリオンネット劇場での伝統的なマリオンネット作りワークショップ



↑プラハ大学で開催した墨のワークショップの様子

### チ

エコ(チェコ共和国)の芸術文化と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか。不条理文学のカフカ、アール・ヌーボールの画家アルフォンソ・ミュシャ。シュールリアリストの芸術家のヤン・シュワンクマイエル。軽妙かつ濃厚な人形アニメや絵本作品の数々。あるいはさらびやかなボヘミアングラスやスメタナやドボルザークの音楽を思い浮かべる人もいるでしょう。ちょっと不思議で怪しく、でもなんだかかわいいたちエコ芸術の世界観は世界中で高い評価を受けており、日本にも多くのファンがいます。それは中欧という微妙な地政学的条件下、

自国の文化やアイデンティティーを守り続けてきた中で生まれた独自性への評価ともいえるでしょう。一方、世界の日本文化への評価の多くもその独自性にあります。例えば明治期、ヨーロッパのアートシーンにも大きな影響を与えた陶磁器や浮世絵、現代のコミックやアニメーション作品やフィギュア等。この遠く離れた小さな二つの国は世界の中で「独自の文化を創出する国」と目されています。本研究ではその両国の図画工作科・美術科の教育カリキュラムや授業の様子をプラハ大学のマリ・アフルコバ博士の協力を得

ながら比較調査し、今後両国が引き続き独自の文化を創出し続けるために必要だと考えらえる伝統文化学習の在り方についての考察を行ったものです。

調査の結果、チェコのカリキュラムでは美術を通じて個人の心象等を「表現」し伝えることが重視され、日本で育成すべき能力であるとされる「造形能力」についてはさほど取り上げられていないことが分かりました。また、過去の美術作品については、日本では優れた作例という前提での自分とは乖離した存在として鑑賞される傾向がありますが、チェコでは過去の

アートの文脈を自己の表現にどう生かすかといった指導が目指されます。このようなカリキュラムの方向性の違いは教育現場に反映されており、チェコの美術教育は絵画が中心であり、義務教育の中で「造形能力」の向上を図るような教育はさほどなされていません。一方、美術の伝統文化に関する学習はチェコではほとんど取り入れられていない状況が見えてきました。日本でも重要視されつつあるものの知識・教養として知る程度にとどまっています。チェコでは民主化以降、西洋化が進み、独自の文化が急速に失われつつあることが最近

問題視されています。伝統文化に関する美術教育は急務であるといえるでしょう。

今後、両国の伝統文化教育は、日本の美術教育のスタンスのように伝統文化を重視しつつも、それを古いもの、保護すべきものという捉え方ではなく、チェコの美術教育のスタンスで生きた「表現」、自らを伝える手段・手法と見なし、子どもたちにそれらの能力を育成することが必要だと思われれます。その具体的な方法やプログラムの開発について、今後も引き続きプラハ大学と連携を取りながら研究を行っていく予定です。

問題視されています。伝統文化に関する美術教育は急務であるといえるでしょう。

今後、両国の伝統文化教育は、日本の美術教育のスタンスのように伝統文化を重視しつつも、それを古いもの、保護すべきものという捉え方ではなく、チェコの美術教育のスタンスで生きた「表現」、自らを伝える手段・手法と見なし、子どもたちにそれらの能力を育成することが必要だと思われれます。その具体的な方法やプログラムの開発について、今後も引き続きプラハ大学と連携を取りながら研究を行っていく予定です。

問題視されています。伝統文化に関する美術教育は急務であるといえるでしょう。

# 兵庫教育大学創立40周年記念式典を開催しました



① 式典の様子 ② 井戸兵庫県知事からの祝辞 ③ 柴山文部科学大臣からの祝辞(代読: 淵上国立大学法人支援課長)



## 福田光完学長式辞(抜粋)

本学は、今後も創設の趣旨に沿って、時代に対応する教育実践学の推進に努めるとともに、教職大学院の拡充や、博士課程の拡大を通して、わが国の教員養成の高度化のための具体的な方向を示し、教員研修の全国拠点の確立のため、一層の取り組みを展開する所存です。

記念すべき創立40周年の節目に当たり、皆さま方のこれまでのご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます。後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



① 片田氏による講演 ② 名須川副学長による40年の歩み報告 ③ 演奏を披露した吹奏楽部 ④ 歴代学長

10月14日、兵庫教育大学創立40周年を記念し、神戸市中央区の神戸ポートピアホテルで記念式典と記念講演会を開催しました。

吹奏楽部によるファンファレの演奏で幕を開けた式典には、淵上孝文部科学省国立大学法人支援課長、井戸敏三兵庫県知事の他、教育委員、井戸敏三兵庫県知事など約160人が臨席しました。

式典の後、柴山昌彦文部科学大臣(淵上課長代読)と井戸知事から祝辞をいただきました。続いて、名須川知子理事・副学長が建物の竣工改修や学部・大学院の教育課程の変遷など大学の40年の歩みを報告し、開学50周年記念に制作された開学当初の貴重な記録映像も上映されました。

続く記念講演会では、東京大学大学院情報学環特任教授の片田敏孝氏が「地域と連携した防災教育が子供を変える地域を変える」と題して講演。その後の祝賀会では、兵教大OBの藤本百男兵庫県議会議員による乾杯のあいさつの後、来賓からスピーチをいただき、約120人の参加者が和やかに懇談しました。

創立40周年を迎え、新たなスタートを切った兵教大は、これからも卒業生や修了生、地域の方々との連携を深めながら、日本の教員養成の新たな展開を目指す先導的な取り組みを実践し、教師教育のトップランナーとしてさらなる発展に向けて走り続けます。



## この先生にズームイン

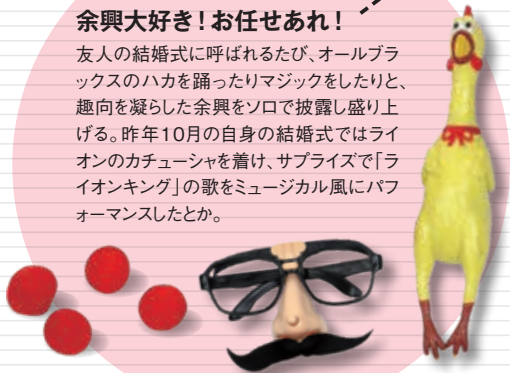
### ピンクリボン運動を応援

特別な日には、ジャケットに乳がん検診を啓発するピンクリボンのピンバッジを着用。身近な人が乳がんになって以来、スマイルウォークに参加するなど、8年ほど前からできる範囲でピンクリボン運動などに参加している。



### 余興大好き! お任せあれ!

友人の結婚式に呼ばれるたび、オールブラックスのハカを踊ったりマジックをしたりと、趣向を凝らした余興をソロで披露し盛り上げる。昨年10月の自身の結婚式ではライオンのカチューシャを着け、サプライズで「ライオンキング」の歌をミュージカル風にパフォーマンスしたとか。



### ユニーク&多彩なスポーツ歴

幼稚園でラグビーを習い、小学4年生から始めたなぎなたでは当時、出身県内唯一の男子選手であり、全国大会にも出場した。さらに、中学はテニス部、高校は野球部に所属。大学では障害者スポーツを支援・普及する側に回るなど、さまざまな形でスポーツに親しんできた。



### 先生に質問!

**A** 南アフリカの共生教育の研究は、私の知る限り日本ではほとんどとされていないので、私だからこそ話せることがあります。それから聞いた学生は「こういう現実があったんだ」と驚く反応が多いですね。共生は日本ではポジティブな言葉として浸透していますが、授業ではその背景にあるネガティブな側面なども恐れることなく語る場にし、社会で他者と共に生きるということについて真剣に考える時間になりたいと思っています。

**Q** 授業で心掛けていることは。

**A** 高校で必修となっている「ライフォリエンテーション」という教科です。過去のアパルトヘイトの加害者と被害者には互いに乗り越えきれない負の感情があることを前提にしているのが特徴で、きれいごとでは語り尽くせない切実な共生社会実現のための教育が行われています。憲法や歴史をはじめとする座学だけでなく、スポーツや地域でのボランティアといった教室外での活動も交えながら、シティズンシップやストレスマネジメント、チームワークなど他者と共に生き延びるためのスキルを学ぶ点が興味深く、共生教育では世界でも先進的な事例です。

**Q** 特に着目している点は。

**A** 共生社会実現のための教育について、社会的観点から研究しています。1990年代前半まで法律による人種差別が行われていた南アフリカで今、異なる人種間の共生を目指す教育がどのように行われているか、フィールドワークを中心に研究しています。

**Q** 先生のご専門は。

**A** 共生社会実現のための教育について、社会的観点から研究しています。

### 鮮やかな色彩がお気に入り

研究で南アフリカに行くたびに、伝統的なビーズ細工など現地の民芸品や土産品を購入してきた。今年は久しぶりに現地に足を運び、最新の状況についてフィールドワークを行う予定だという。



### 友人は世界各地に

南アフリカを訪れたきっかけは、高校時代、スコットランドにホームステイした際に同国出身の留学生がいたこと。大学時代には世界7カ国の学生と共に、各国でホームステイしながら現地の教育を調査して回るプログラムに参加した経験も。交流は今も続いており、写真は結婚祝いにホストブラザーから贈られたもの。



## さか ぐち まさ やす 坂口真康 助教

グローバル化推進教育リーダーコース

奈良県出身。平成22(2010)年筑波大学第二学群人間学類卒業、28年同大学大学院人間総合学研究所3年制博士課程ヒューマンケア科学専攻を修了(教育学博士)。24~26年日本学術振興会特別研究員(DC1)などを経て、28年に兵庫教育大学特命助教、30年1月から現職。専門分野は教育社会学。授業は「国際理解教育」「世界の教育」(いずれも専門職学位課程)などを担当。

# 同窓生からの手紙

兵庫県出身。幼少期からバドミントン一筋で、秋田県の北都銀行チームで2年間プレー。平成27(2015)年、大学院専門職学位課程小学校教員養成特別コースを修了し、現任教に勤務。



うちい ゆか  
**内井佑花**さん  
加西市立泉中学校教諭

## 指導案を書き 自分を磨く毎日です

「指導案を書く」と一番割いた時間です。何度も書き直し、仲間と試行錯誤した日々を鮮明に覚えています。教員になって4年目の指導案を書くことの本当の意味が分かってきました。行き当たりばったりの指導では必ず行き詰まることを身をもって経験し、頭の中で指導案を描きながら日々過ごしています。学生の皆さん、時間のある今だからこそ指導案をたくさん書き、教材に関する知識や考えを深めてください。また、趣味や特技を持ち自分の武器を作ること。積極的に人と関わりコミュニケーション能力を身に付けること。こういった人としての幅を広げることが何より大切であることを今、実感しています。私自身、実業団まで現役を続けたバドミントンを通して学んだ人との付き合い方や物事の考え方が教員になって生きています。情熱あふれる先輩方に囲まれ自分を磨く毎日がとても楽しいです。一緒に働ける日を楽しみにしています。



←道徳の授業の様子

# LETTERS FROM OB & OG

岡山県出身。平成22(2010)年学校教育学部芸術系コース卒業、24年大学院修士課程芸術系コース修了後、筑波大学大学院に進学。同大学非常勤研究員等を経て、現職。日展をはじめ全国展での受賞多数。



やまもと まさゆき  
**山本将之**さん  
大阪大谷大学専任講師

## 培ってきた造形観・素材観を 幼児造形の世界に生かします

→大学と幼稚園の交流フェスティバルで発表した山本ゼミの造形遊び



←改組新第5回日展入選作品「例え土が無くても」

美術とは無縁の高校時代を経て、学部2年生の時に彫刻と出会いました。以降、大学院まで一貫して人体を対象とする彫刻制作にまい進。大学時代は制作を通して、普遍や本質という言葉の意味を探求できる貴重な時間を過ごすことができました。昨年度からは保育者養成に携わり、幼児の造形表現に触れる機会が増えました。幼児の造形とは描画のみを指す言葉ではなく、例えば砂遊びの際に山を作り、トンネルを掘り、水を流すといった活動も含まれます。そのため、体全体で素材と触れ合う行為の集積が、結果として子どもの表現として現れます。大学時代とは別種の新鮮な表現に出会っています。現在は制作研究を通して培った造形観や素材観を幼児造形の世界に踏襲すべく、日々悪戦苦闘しています。これまでの素材研究を生かした新しい児童文化財の開発や、子どもの興味を促す造形遊びの提案など、大学時代から意識している本質の所在を常に考え、研究を進めていきたいです。

## 同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

### 教育研究活動に係る表彰について

8月4日、5日に鳥取県米子市で開催した第38回大学院同窓会鳥取大会で、平成30(2018)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高めた修了生が対象。今年は8人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

◎表彰者(敬称略)

嬉野賞 / 伊井直明(4期・教育基礎・兵庫県)

奨励賞 / 小川雄太(36期・授業実践開発・兵庫県)、河合信之(34期・認識形成系教育・兵庫県)、津田直子(17期・生徒指導・大阪府)、松田雅代(35期・授業実践開発・大阪府)、三谷祐児(15期・言語系・鳥取県)、中佳久(19期・障害児教育・和歌山県)、小川圭子(18期・幼児教育・大阪府)

「理科は身近なことから関わりがある大事な教科だから、成長してからもずっと興味を持ってほしい」。理科離れが進む中、理数系教育コース1年の今田三樹子さんは、化学の面白さや不思議さを体感できるような楽しい実験を交え、小学校・中学校・高校の学習内容のつながりを意識した授業構成にベースを置いた、兵教大発の教材を開発しようと仲間と一緒に奮闘している。

出産を機に民間企業を退職してしばらく子育てに専念後、昨年4月に大学院に入学した、珍しい経歴の持ち主だ。同じコースで学ぶ現役教員の若本幸恵さん、社会人経験を持つ赤木恭和さんに呼び掛け、チームを結成。申請した課外プロジェクトが認められ、9月に活動を開始した。

まずは子どもたちの興味関心を知ろうと近隣の小中学校にアンケートを取り、その結果を反映させながら実験をメインにした教材作りに着手。「理科に対する苦手意識を減らし、逆に好きになるような要素を盛り込んだ授業を目指しています」。さらに、教材完成後に実際の学校現場でどう活用し

てもらおうか、その広め方なども模索している最中だ。

11月の大学祭では、プロジェクトの一環として化学実験教室を開催。スパーボールすくいに使うポイに挟む紙について、性質の異なるものを複数用意し、遊びながら「理科の見方・考え方において溶けるとは何か」と学んでもらうことを狙った。

「小学校高学年を対象にした内容だったので、小さな子どもたちもたくさん参加して、最後まで集中して取り組んでくれました。実施後には楽しかった、理科がもっと好きになったという声が多く寄せられました。『やったかいがあつたね』とみんな嬉しかったです」と笑顔を見せる。とりわけ手応えを感じたのが、実験前に意図を説明するために美術系の学部生に手作りしてもらった紙芝居。実験をする意味がとてもしっかりやすく伝わり、今後も紙芝居と同様、科学的読み物で意図や狙いを伝える方法を取り入れていく考えだという。

子育てと両立しながら修了した暁には、高校の化学の教員として個性的な授業を展開したいという夢を抱いている。

理科の楽しさを  
子どもたちへ！  
実験を交えた  
教材開発に奮闘中

キラリな人

## 今田三樹子さん

修士課程  
理数系教育コース1年

昭和55(1980)年明石市生まれ。山形大学工学部を卒業後、神戸市内の化学メーカーで研究職に従事し、約3年間勤務後、退職。子どもを連れて兵教大の子育て支援ルーム「GENKI」を利用時に大学の教員に相談し、かねてから希望していた大学院進学を決意。受験勉強に励み、平成30年4月に兵教大に入学した。現在、上は中学1年生から下は2歳まで2男2女を育てながら通学している。



◎課外プロジェクトとは  
学生の自主的な取り組みに対し活動資金を支援する学内制度。平成30年度は今田さんの「初等・中等・高等教育における一貫した学びのための化学実験授業開発プロジェクト」など4件を採択した。

# データで見る兵教生

～第13回(平成29年度)学生生活実態調査報告書から検証～

## 兵教生と課外活動

私生活と両立しやすいということで、陸上競技部に加入しました。全体練習は週3回、あとは個人練習。バイトや勉強の時間も確保しながら、好きなスポーツに打ち込んでいます。高校までとは違い、練習内容や練習試合も自分たちで考え、調整します。クラブ運営で身に付けたスキル、経験は必ず自分の力になります。さらに、先輩・後輩はもちろん、他校にも交友関係が広がるなどクラブに入るメリットはたくさん。せっかくの4年間、充実した大学生活を送る手段の一つとして、ぜひクラブ活動を考えてみてください！

クラブのおかげで  
充実した大学生活を  
送れています



いけだ ゆうた  
**池田雄大**さん

生活・健康系コース(学部)3年  
陸上競技部所属  
体育会会長

### 過半数が課外活動に参加も 加入率は減少傾向に

課外活動団体(クラブ)に加入して活動している学部生は57.1%と過半数を超えている。その内訳は体育系が61%、文化系28%、両方が11%であった。

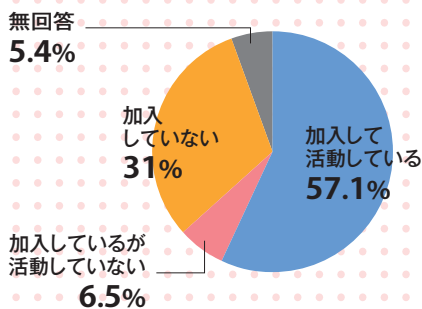
1週間の活動日数は「3日」もしくは「4日」が最も多く、合わせて69%となった。課外活動への加入動機・きっかけは、「友人がほしい」42.1%、「趣味と一致する」40.2%と続き、学生にとって課外活動は学内での人間関係を構築する場であるとともに、趣味を楽しみ自分の技術を磨く場となっていることが分かる。

なお、前回の学生生活実態調査(平成26年度)と比べると、課外活動の加入率は低下しており、兵教生の時間の使い方が多様化していると思われる。

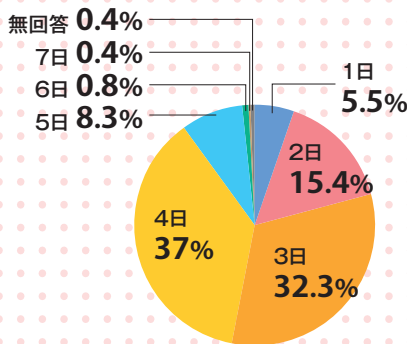
## HYOKYO'S DATA

※グラフの各項目の割合については、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%にはなりません

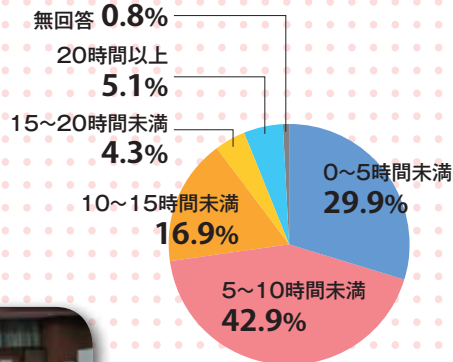
### 課外活動団体に 加入していますか(学部)



### 課外活動は1週間に 何日していますか



### 課外活動は1週間に 何時間していますか



年齢も経歴も  
違うみんなが  
一つの目標に向かい  
頑張っています



兵教大の強みは、多くの人と幅広く交流し、コミュニケーションを密に取ることができる点だと思います。所属しているオーケストラ部では、学部生、院生、教授など、普段の生活ではなかなか関わることができない方たちと一緒に演奏をしています。年齢も経歴もばらばらですが、一つの目標に向かって共に頑張ることができるのは、この大学だからこそ。バイトに部活に、勉強と、大変なことはたくさんありますが、教育という共通点を持った集団の中で有意義な学生生活を送ることができるこの環境にとっても感謝しています。



おおし かずほ  
**大橋和歩**さん

学校教育系コース(学部)3年  
オーケストラ部所属  
文化会副会長

## ワタシのイチオシ

心に残る映画、つい口ずさむ音楽、  
行きつけのスポットや思い出の一冊。  
みんなにも薦めたい私のお気に入りを紹介。



おかだ ひじり  
**岡田聖**さん  
学校教育学部  
生活・健康系コース4年

## MOVIE

### 主人公の生き方は勉強になります

**私**

は百田尚樹さんの作品をよく読みます。映画化された作品でイチオシは「海賊とよばれた男」です。主人公の岡岡鐵造の熱い生き方はとても心を打たれるものがあり、生きる上で大切なことを教えてくれている気がします。特に、問題にぶつかったときの発想力や行動力は今の私に足りないものであり、勉強になると思いました。まだの人はぜひ一度見てください！何か新しい発見があると思います。

2月15日(金)に公開される百田さん原作の映画「フォルトウナの瞳」にも興味があります。今後も百田さんの作品から目が離せません！

### 「海賊とよばれた男」

発売・販売元 / ソニー・ミュージックマーケティング  
©2016「海賊とよばれた男」製作委員会 ©百田尚樹 / 講談社

### もうすぐ卒業ですね！

この曲には「確かな答えなんて何一つ無い旅さ / 心揺れて迷う時も ためらう気持ちそれでも支えてくれる声が 気付けばいつもそばに」という歌詞があります。これから学校現場で働く私たちにあって、確かな答えはないと思います。迷うときもどうしたらいいかわからないときもあるでしょう。そんなとき、4年間一緒に学んできた仲間の声が聞けたら支えになると思いませんか。今年卒業する皆さんはもちろん、まだ大学で学ぶ皆さんにも聴いてほしい曲です。

## MUSIC



ながの さき  
**長野沙紀**さん  
学校教育学部  
言語系コース4年



ゆず  
「友～旅立ちの時～」  
発売元 / SENHA & Co.



お菓子の工房 ナオエ  
三木市緑が丘町東1-1-43  
☎0794-85-8813  
9:00～20:00 不定休



のせ  
**能勢りか**さん  
修士課程  
芸術系教育コース2年

## SPOT

### レモンケーキに魅せられて

**前略**

スイーツ好きの皆さま、大学から車で30分、神戸電鉄緑が丘駅近くにある「お菓子の工房 ナオエ」さんを紹介したいと思います。一番のお薦めは何と言ってもレモンケーキ。ナオエさんのレモンケーキは、どこかノスタルジーを感じさせてくれるながらも、一度食せば癖になる存在感があります。しかも、一つ100円!!とってもリーズナブルです！  
季節感のあるお菓子やラッピングで、お店の中はいつもとっても楽しくワクワクする空間が広がっています。スイーツ好きの皆さま、ぜひ一度お薦めレモンケーキをご賞味あれ！  
草々

### きれいな日本語を勉強しませんか

日本語は大変きれいな言語だと思えます。例えば、雨の多い日本では「五月雨」「喜雨」「小糠雨」など雨を表現する数多くの言葉が存在します。これらの言葉を讀むだけで、日本の方の自然に対する愛情が感じられます。  
この本には、美しい日本語がいっぱい書かれています。最近の乱れた日本語や若者言葉にへきえきしている人にとっては、癒やされる言葉ばかりです。若者や外国人も、素晴らしい言葉を作り出した先人たちが日本の自然に感謝したくなるきれいな日本語をぜひ一緒に勉強していきたいものです。

## BOOK



とうぎ けん  
**鄧宜娟**さん  
特別聴講学生  
(華南師範大学)



東郷克美  
「きれいな日本語が聞きたい」  
ゴマブックス株

## URESHINO BULLETIN BOARD

### 南あわじ市と 「学校経営力向上に資する連携協定」 を締結

7月23日 南あわじ市

兵教大と南あわじ市は、学校経営力向上のため相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に、連携協力協定を締結しました。今後、学校づくりを核とした地域教育力向上と、学校管理職やミドルリーダー等教職員の人材育成のための連携協力、兵教大における教育・研究への連携協力が期待されます。



### 大学院同窓会総会・研究大会 鳥取大会

8月4日、5日 ANAクラウンプラザホテル米子

第38回の鳥取大会に、16都府県の修了生・在学生や大学関係者91人が参加。総会・研究大会では、教育実践研究活動等の表彰、福田光完学長のほか、平井伸治鳥取県知事による記念講演も行われました。翌日は2コースに分かれ、鳥取県の名所を巡視しました。



### 「育てたい子ども像」の 熟議を支援

8月7日 沼津市大岡地区センター

静岡県沼津市大岡地区でのコミュニティースクール実践に向け、竹西亜古教授と生徒指導実践開発コース2年の梶原利彦さんの指導の下、集まった教員や住民ら約60人が「大岡地区で育てたい子どもの姿」について議論しました。教職大学院の連携協定の一環であり、その様子は新聞5紙に掲載されました。



### 附属中学校3年の前川陽来さん 全国中学生ラグビーで頂点

9月17日 水戸市ケーズデンキスタジアム

附属中学校3年の前川陽来さんの所属する吹田ラグビースクールが、第9回全国中学生ラグビーフットボール大会スクールの部で初優勝に輝きました。前川さんは準決勝で決勝トライを決めるなど優勝に大きく貢献しました。10月30日には安田正義加東市長を訪問し、優勝を報告。賞賜金が授与されました。



### 防災シンポジウム 「防災教育としての連携のあり方 —SDGsを踏まえて—」

9月22日 兵教ホール

グローバル教育センターと就学前教育カリキュラム研究開発室の主催により、持続可能な開発目標(SDGs)の観点を踏まえて防災教育を学ぶことを目的に開催。台北教育大学の翁麗芳教授や、福山市立大学の大庭三枝准教授による講演等が行われ、約40人が参加しました。



### 倉敷市災害支援ボランティアに 学生が参加

9月24日 倉敷市内

兵教生による災害支援ボランティアグループ「Convey a Smile」が企画した倉敷市災害支援ボランティアに、学生やその関係者18人が参加しました。現地では、家具の持ち出しや軒下の泥出しなどに汗を流しました。現地はまだ復旧半ばでしたが、被災地に学生たちの元気と笑顔を届けることができました。



### 野外図書館企画 (BLUE CLASS)

10月18日 加東キャンパス

青空の下で読書やワークショップなどの知的アクティビティを楽しむ野外図書館企画の第1弾として、附属図書館前の緑地スペースで無料古本市&読書カフェイベントを開催しました。学生や附属幼稚園の園児など約200人が参加し、それぞれのスタイルでのんびりと読書のひとときを楽しみました。



### 第37回兵庫教育大学大学祭 「嬉祭祭」

11月10日、11日 加東キャンパス

何かのために、誰かのために、泥臭く体を張って、歴史に残る大作を作ろうという思いを含め、「むちゃイケ〜無茶は無茶でも無茶苦茶イケてる〜」をスローガンに開催。模擬店や芸能イベント、バンド演奏、クラブ活動発表など多彩な催しを実施し、多くの人が来場しました。



### 平成31年 学部同窓会総会・研修会

1月5日 神戸ハーバーランドキャンパス

卒業生、大学関係者58人が参加。初の試みとして、子ども連れの参加者のために託児所を設置しました。研修会では、森秀樹教授による「対話で考える—なぜ勉強するの—」と題した対話形式の講演では、熱のこもった議論が交わされました。研修会後の懇話会では、大学の教員と同窓会員が和気あいあいと親睦を深めました。



**森山潤教授が  
日本産業技術教育学会の  
学会賞(論文賞)を受賞**

平成29(2017)年度連合学校教育学研究科修了生の阪東哲也さんとのLED発光教材を使った小学校でのプログラミング教育に関する共著論文が評価され、平成30年8月に受賞。森山潤教授は「今後も小学校プログラミング教育の発展に資する研究を積み上げていきたいです」と語った。



**日本ストレスマネジメント学会  
第17回学術大会ポスター発表  
最優秀発表賞受賞**

修士課程学校心理・学校健康教育・発達支援コース2年の瀬川真生さんと藤原忠雄教授による中学生のひきこもり親和性をテーマとしたポスター発表に、最優秀発表賞が贈られた。瀬川さんは「今年、現場に復帰予定なので、研究の成果を現場の保健指導に生かしたいです」と意気込みを語った。



**日本トレーニング科学会  
トレーニング科学研究賞  
大賞を受賞**

連合学校教育学研究科2年の榎本翔太さんと、岡山大学教育学研究科の加賀勝教授、本学の小田俊明准教授による共同研究が、研究賞大賞を受賞。榎本さんは、「多くの人に協力していただいた研究が評価されたことを大変うれしく思います」と喜びを語った。



きくち ひとし  
**菊池仁志**

兵庫教育大学附属小学校教諭



学習指導要領が変わり、  
道徳科の授業で工夫したら  
いいことは何ですか。



キャンパス  
トピックス

QUESTION & ANSWER

道徳科としてスタートした教科化元年。各学校では、道徳科の授業についてさまざまなことを検討し、授業に臨んでいることと思います。

私が道徳科の学習で大切にしていることは、2点あります。それは、子どもが「自分との関わりで考えること」と「多面的・多角的に考え、一人一人が納得解を持つこと」です。

1 点目の「自分との関わりで考えること」とは、自分の経験と重ね合わせて考えたり、自分だったらどうするか考えたりすることです。登場人物の行為に着目することで、自分との関わりで考えやすいと捉えています。

2 点目の「多面的・多角的に考え、一人一人が納得解を持つこと」とは、他者との対話を通して、子ども自身が多様な考えを持ち、自分のこれからの在り方を考えていくことです。1 時間の学習が終わったときに、子どもが前向きな心で自分がこう在りたいと思えるようにしています。

このような子どもの姿を引き出すために、授業で工夫していることは以下の2点です。

1 点目に、登場人物の行為に着目した発問を組むことです。人物の行為に着目することで、その行為に含まれる気持ちや考えを自分なりに持つことが

できると考えています。

2 点目に、自分との関わりの中で考えられるように、体験的な学習を取り入れています。私の実践の多くは、子どもたちが登場人物になりきって演じる役割演技や動作化を取り入れています。登場人物を演じることで、言葉だけでなく、動きにも思いや考えを込めることができるので、子どもたちの対話も充実する手立てとなっています。授業展開はさまざまあると思いますが、大切なのは子どもの学びが保証されているか、道徳科で学んだことを自分の生き方に生かそうとしているかだと思えます。

## 兵庫教育大学からのお知らせ

☎=申し込み先 ☎=問い合わせ先

### 平成31年度 大学院学校教育研究科説明会

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)の教育課程や専攻・コースの概要について説明します。在学生・修了生の体験談発表や、教職員との個別相談の時間も設けます。開催日時、会場等については、決まり次第ホームページでお知らせします。



☎ ☎ 広報・社会連携課

TEL 0795-44-2359 FAX 0795-44-2320

✉ pro-kyosyoku@hyogo-u.ac.jp

大学院説明会(神戸)



大学院説明会(加東)



大学院説明会(加東)

### 大学院入学相談室

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)への入学希望者を対象に電話、ファクス、メールで相談を受け付けます。

※平日8:30~17:15のみ

☎ ☎ 大学院入学相談室

TEL 0795-44-2359 FAX 0795-44-2320

✉ pro-kyosyoku@hyogo-u.ac.jp

### 大学院同窓会会員と 大学教員との共同研究の申請

大学院修了生と大学教員とが共同で取り組む研究の中から、特に学校現場の課題解決や大学の実践的な教育研究の進展に役立つものを選び、研究経費の一部を補助します。

平成30(2018)年度は10件を採択しました。

☎ 申請締め切り 4月30日(火)

☎ ☎ 都道府県連携推進本部

TEL 0795-44-2375、2406

FAX 0795-44-2376

Hyokyo-net ▶▶▶ <http://www.hyokyo.net>

### 教育実践研究活動に係る 表彰者の推薦・教育実践研究 論文の応募を受け付け

大学院同窓会では、教育実践研究に顕著な成果を挙げた修了生を表彰しています。今年度も受賞にふさわしい修了生の推薦を受け付けています。今年8月の同窓会兵庫大会(姫路市)で表彰式を行い、学長・同窓会長連名の表彰状を授与します。

☎ 推薦・教育実践研究論文の応募締め切り  
3月31日(日)

☎ ☎ 都道府県連携推進本部

TEL 0795-44-2375、2406

FAX 0795-44-2376

✉ office-dosokai@hyogo-u.ac.jp

Hyokyo-net ▶▶▶ <http://www.hyokyo.net>

### 教材文化資料館 2019年度前期展 「人と木のひととき — 就学前教育における おもちゃとESD — (仮)」

遊びを通して学び成長する乳幼児の発達過程を、実際に手に取って遊べる木のおもちゃとともにたどります。「木との触れ合い」をテーマに、木の豊かな感触を楽しめる空間「ひとときルーム」も設置。また、兵教大の就学前教育カリキュラム研究開発室の事業を概観し、主要な取り組みである子育て支援ルーム「かとうGENKi」も紹介します。

☎ 開催期間 4月1日(日)~8月30日(金)

平日8:30~22:00、

土日祝日10:00~17:00

☎ 場所 教材文化資料館(附属図書館内)

※臨時休館する場合があるため、附属図書館のホームページなどで確認してください

☎ 教材文化資料館

TEL 0795-44-2362

### ◎取材風景

グローバル化推進教育リーダーコース坂口真康助教の取材の様子です。毎号、「この先生にズームイン」のコーナーを楽しく読んでのこと。学生時代から現在に至るまで、さまざまな国の経験についてお話しいただきました。



### 2019兵庫教育大学美術展

卒業制作および学部生や大学院生、附属幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒らによる合同作品展。入場無料。3月9日(土)11:00からギャラリートークを開催。

☎ 日時 3月9日(土)・10日(日)10:00~18:00  
(最終日は15:00まで)

☎ 場所 三田市総合文化センター郷の音ホール(三田市天神)

☎ 芸術系コース美術分野(初田)

TEL FAX 0795-44-2252

✉ hatsuda@hyogo-u.ac.jp



### 教材文化資料館に 大学アーカイブコーナーを 設置しました

創立40周年を記念して、教材文化資料館の一角に大学アーカイブコーナーを設置しました。兵教大の歴史を振り返るさまざまな資料を展示しています。ぜひ、ご覧ください。



### 平成30年3月卒業者の教員就職率が「全国第1位」となりました!

文部科学省が1月31日に発表した「国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の平成30年3月卒業者の就職状況等について」において、教員就職率「全国第1位(75%)」、さらに進学者と保育士への就職者を除いた教員就職率でも「全国第1位(86.6%)」となりました。兵庫教育大学では、以下の通り教員就職支援の取り組みを強力に展開し、学生の「必ず教員になる!」という夢の実現を最大限バックアップしていきます。

- ▶ 1年次から4年間を見通した就職ガイダンスを計8回実施
- ▶ 学部3年次学生を対象に、「教師力養成特別演習」を通年で開講
- ▶ 学部3年次学生を対象に、現職教員や卒業生、学部4年次学生との進路別グループワーク等を取り入れた「就職対策強化研修(1日研修)」を実施
- ▶ キャリア開発指導員(元公立学校長)による個別の就職相談
- ▶ 外部講師による筆記試験対策講座やキャリアデザイン講座
- ▶ 模擬面接、模擬授業、模擬試験(筆記)など

### ▶▶編集後記

教育最前線の記事作成に当たり、部活動についていろいろ下調べをしたのですが、ネットやテレビの報道以上に中央省庁等で議論されていることに大変驚きました。「その時代の価値観に合わせて部活動も変わるべきである」という有山先生の解説にも目からうろこが落ちる思いです。今号が部活動に関わる方々の一助となれば幸いです。(ふ)

※バックナンバーは兵庫教育大学ホームページをご覧ください

### ◎あなたの声を聞かせてください

「教育子午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりを目指しています。はがき、インターネットのアンケートサイト、メールでご意見、ご感想をお寄せいただいた方にオリジナルのボールペンまたは付箋紙を進呈します。

【あて先】

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学大学広報室

TEL 0795-44-2431 FAX 0795-44-2320

✉ office-koho@hyogo-u.ac.jp

アンケートサイトURL

https://jp.surveymonkey.com/r/K6PT8YD



アンケート  
サイト

